

平成 27 年度 第 3 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 27 年 6 月 16 日（火）午前 10 時～12 時

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：10 名（欠席 4 名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開会

2 協議

第 2 期市民協働のまちづくり推進計画（案）について

事務局より説明。

資料 1 【自治会加入について】

○：30 ページ，自治会・町内会の加入率向上で，担当が地域調整課，市民課，各支所となっているが，支所などで転入された方にどこの町内会になるといった加入の案内をされているのか。

●：今はそういった働きかけはしていない。本郷・久井・大和は住んでいる地域の町内会は分かるが，三原地域は細かく分かれていて，どこの町内会か分からないところがある。転入者が町内会に入るために情報提供をしていきたい。

○：この取組みは 7 月からやるということか。

●：この計画ができてから取り組むことになる。

○：市職員のこと書いているが，計画書に言葉だけ出すのであれば考えものだと思う。三原市以外に住んでいる職員もけっこう多いと思うが，私が知っている方と何人かに話をしたが，その方々は町内会に加入されていない。取組みをすると書いてあるが，7 月から本当にできるのか不安である。

○：計画策定後，アクションプランをつくっていかないといけながい，この委員会で引き続き議論することになる。言葉だけで終わらず，できるところから一つずつしていくことだと思う。30 ページに，活動への参加だけではなく，加入を勧めていくことも加え文言の整理ができればと思う。

資料 1 【その他】

○：アンケートやヒアリングから見えた課題と具体的事業との整合性がまだ少し分かりにくい。

○：35 ページのコミュニティビジネス養成講座の開催について，住民自治組織を対象となっているが，住民自治組織だけしか対象にならないのか。

●：35 ページでは住民自治組織を対象にしているが，43 ページに市民活動団体も対象にしたコミュニティビジネス養成講座の開催を載せている。住民自治組織と市民活動団体を分けて掲載しており，どちらも対象とした事業としている。

○：夢が持てる前向きになれる 5 年，10 年後について施策に表しており，第 6 章の今後の進行管理をしながら，アクションプランを展開していく。この計画は 10 年を一つのスパンとして，皆さんの生活や心の豊かさにつながっていくという夢のある書き方が必要だったかもしれない。

●：この部分は，課題への対応ということであるので，この段階でより具体的な将来の夢をここに記載するというのは難しいのではないかと。

- ：アクションプランの位置付けは、推進計画に少し出てくるだけだが、どうやって進めるかはこれからしっかり考えなければいけない。計画をつくる上での目標については、第1期では市民協働の効果について書かれてあり、市民、自治組織、行政にとっての効果が書かれていたが、この部分がなくなっている理由は何か。
- ：34、45ページの地域プラットフォームの開催で、「概ね小学校区ごとに」とあるが、学校の統廃合により範囲が変わっており、地域のつながりの範囲は行政による区域分けではなく、どこか別のところで決めたほうがいいのではないか。小学校区だけで区切るのではないほうがいいのではないか。
- ：31ページの新たなグループづくりに対する支援の参考事例について、例えば本町のグループの「いろは」さんでは、運営実行委員会を作って子どもと高齢者が出会う場づくりをして喫茶活動や行事をされている。できるだけ三原の活動を入れられたらいいのではないか。
- ：参考事例について、事務局は情報を持っているか。
- ：具体的には情報を持っていないので確認する。
- ：第1期計画には市民協働の効果という項目があり、市民と行政それぞれの効果が書かれている。第2期計画の6ページ「協働のまちづくりとは」で協働の効果について記載してもいいのではないか。
- ：6ページで、「自助、公助、共助の輪を広げ」とあり、それが今回の大きな目的であり、それが達成されることが効果でもあるので分かるのだが、第1期計画も「自助、公助、共助」の言葉はあるが、あまり脚光をあびていない。第2期計画とのつながりでどうなのかと思う。
- ：効果は、どう評価するかということだと思うが、第2期計画では方向性に当たることを書いていると思う。その計画を実行したらどんな良いことがあるのかということが書いてあるので、課題に対する方向性として第2期計画には書いてある。編集の仕方が違うのではないか。
- ：18ページの最初の2行の方向性について、「こういった効果をもたらすので、そこに向かって行きましょう」といった表現になるように少し手を入れる必要がある。
- ：計画にはアクションプランがないので、どう動くか言うだけで終わらないか心配である。
- ：アクションプランはどんな予定なのか。
- ：事業を計画的にこのように実施していくと委員にお示しし、各事業を進めることを考えている。意識の醸成など具体的なものは市民の中にあるので、第2期計画はそれらを踏まえて行動に移す計画としようという意見であったので、アクションプランは書いていない。
- ：計画の最後のページに「アクションプランを作成します」と書いているが、この計画ができてから、今年度後半に、これに基づいた年次計画が入ったアクションプランを作っていくのか。
- ：すべての事業を網羅した1冊の計画書は作成しない。個別事業のアクションプランを作る。
- ：35ページの「コミュニティビジネス養成講座の開催」について、「改善」となっているが、これまでやっているということでもよい。住民自治組織は実際にやりたいことがあるときに、どこの課がそれを担当しているのかを知りたい。改善はすでにやっていた事業だと思うが、こうなったから、ここを改善するというと担当課が分かればよいと思う。
- ：35ページの四角にあるように第1期計画で取り組んだ施策は「協働を支える人材の養成講座等の開催」であったが、コミュニティビジネスを学ぶ講座は開いていなかった。今回はそれに取り組む

ということで、改善としてあるが、ある意味では新規になるのかもしれない。

- ：ここでは拡充という考え方のほうがいいのではないかと思う。いままでの取組みの幅を広げていくという考え方で、それをまとめて改善という表現にしている。
- ：これまでの委員会で「新規」「改善」「継続」の3つの分類で整理することになったので、この四角の中をもう少し書き足して、第1期計画での施策ではここまでしかできていなかったのを改善するといった内容を入れてはどうか。
- ：施策ごとの担当課を市民にどう見せるか、仕組みをどうするかという話であるが、担当に地域調整課と入っているので、困ったことがあったら、地域調整課に連絡し適切な施策を紹介してあげたり、橋渡しをする役割を担うということでもいいのかということが問われている。
- ：一元的なものにまとめて情報提供をする、もしくはここにすべての主管課を書くことについて、現時点のものは拾い出して書けるが、次年度以降も事業が継続されているかの保証がない。そのため、ここで詳細に書くよりも、計画期間中で変更が生じることを考えると、随時変更ができるアクションプランで対応させていただくほうが実態に合っていると思う。住民組織の窓口としては、何かあれば地域調整課を窓口として問い合わせさせていただければ対応していく。
- ：市民がやりたいことがあるというときに、いろいろな窓口がコーディネートすることは実際には難しいので、コーディネートする役割を地域調整課がやっていくという位置付けをはっきりさせておけばいいのではないか。
- ：位置付けとしては地域調整課が窓口になるが、市民や住民組織の方すべての対応を地域調整課でしているわけではないので、他部署でもつなぐという意識で対応していくことを組織で統一していくことが大事だと思っている。
- ：第2期計画では窓口として悩み事があれば地域調整課に行けばいいということで、すべての施策に出ているので、その姿勢は示すことができているのかと思う。計画では地域調整課と関係する課という書き方にして、アクションプランで窓口としては地域調整課だけでも、関係する課はここという形で表していけばいいのではないか。
- ：住民組織から言うとそのほうがいいと思う。窓口は地域調整課にしておいてもらって、地域調整課で振り分けてもらうほうがよい。
- ：これを手にした最初の相談先は地域調整課ということであって、具体的に進めていくのは担当部署になってくる。この「担当」というのは、どういったことをするのかの解説を計画に入れたい。
- ：「新規」と「改善」についてはどうするのか。
- ：第1期ではここまでやっていて、ここからはできていないという解説をいれてはどうかと思う。
- ：「新規」か「改善」かは、おそらく市民の方は分からないのではないか。あまり言葉がたくさんになるよりは、これは改善で、これは新しく始まるということが分かればいいのではないか。
- ：計画を見ると、「継続」は一つしかない。ほとんどが「改善」か「新規」になっている。事業があまり変わらなくても、やり方をリニューアルするものも「改善」であり、拡充するのも「改善」であり、広い意味で使われている。正確に表現しようとするとな煩雑になるので、結果的に「改善」という大きなくくりになっているのではないか。
- ：24ページの各種団体に商工会議所と商工会があるが、本郷にあるのは「臨空商工会」なので、「臨

空」を付けたほうが分かりやすいのではないか。

- ：固有名詞を全部入れていく必要はないのではないか。団体としては、商工会議所と商工会が別々の組織としてあるということでもいいと思う。
- ：22ページの中核組織で「単位町内会だけではできないことの実施」とあるが、「の実施」は取ったほうがいいのではないか。「単位町内会だけではできないこと」が中核組織ではできるようになるとのことだと思うので、「実施」を入れるのであれば、「を実施」とすべきではないか。
- ：名詞で終わらず表現になっている。他と合わせて文言の整理をさせてもらう。
- ：概ね小学校区という表現については、どうか。
- ：ここで使っている小学校区は、現在の小学校区とイコールではなく、どの時点かは分からないがある時期の小学校区を指しているということが共通理解されていけばいいのではないか。
- ：基本的には歴史的なつながりのあるエリアが対象になると思う。小学校区で区切れないところもあり、歴史的なつながりを見た上で、旧小学校区の単位という捉え方になる。
- ：一般の市民の方にそれが分かるのだろうか。
- ：「概ね小学校区ごとに」という表現だとそういった誤解が生じてしまっはいけないので、これまでのつながり、歴史的な背景といったことを入れて編集させてもらう。
- ：今後のプロセスについて教えていただきたい。
- ：概ねこの内容について了承をいただけたら、今後は市の内部で、関係課や市推進本部での承認、議会への説明、市民に見てもらって意見をいただくパブリックコメントを実施して、計画書が完成という運びになる。
- ：計画の完成が7月末になるのか。
- ：現時点では完成時期は確定していない。
- ：何回も議論を重ねて、委員の皆さんからご意見をいただいて、どういった思いでのこの第2期計画かを伝えていただいた上で、市内部でご議論いただきたいということをぜひお願いしたい。
- ：今日の委員会で計画をまとめることについて一区切りとしたいがよろしいか。

(意義なし)

3 その他

なし

4 閉会